

# 仙台陣屋から版

第六十一号

(平成二十二年三月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: [jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp](mailto:jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp)  
〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

多くの方々に支えていただきながら、四半世紀を迎えられたことに感謝して。  
平成二十一年度歴史と文化のまちPR展示事業「仙台藩白老元陣屋の二十五周年」展開催！



昭和五九年十月の開館以来、市民の皆様からの大きなご理解とご協力を賜りながら、様々な活動を進めさせていただいております。仙台藩白老元陣屋資料館は、今年度開館二十五周年を迎えており、来館者数も、延べ二十一人を突破しました。

そこで、開館から現在まで四半世紀の資料館と陣屋跡の歩みを辿る、表記の展示会を感謝をこめて開催いたします。期間は三月二十日(土)から四月十一日(日)まで。期間中は市民の入場料は無料です。

十年で「一昔」、二十年で、れっきとした「昔」と呼ばれますが、さらに五年という長い歳月を経た資料館にも、たくさんの思い出が生まれてきました。

その思い出のひとつひとつを拾い集め、ご支援・ご協力をいただいできた個人や団体、これまで開催してきた特別展のパンフレットやポスター、関係団体との活動で生み出すことのできた成果の数々、さらには資料館の設計書から今年度の新着資料までを紹介・展示する、「これを見れば、陣屋資料館の全てがわかる」という展示会にしたいと考えております。



白老の人々と共に歩み、白老の歴史を内外に紹介しながら、自らもその歴史の一部として語られる陣屋資料館の姿を、ぜひご覧下さい。

〔開館当初に寄贈された「北を守る」像が、今日も来館者を迎える〕

白老地域文化大学の活動から

第三十四回白老地域文化大学講座「森竹竹市翁について」を、二月十三日、陣屋資料館のロビーにおいて行いました。

同講座は、一月三十日から開催している資料館企画展「エカシが残した民族の宝」展と連携させたもの。苫小牧郷土文化研究会会長・森竹竹市研究会会員などを歴任されている山本融定氏を講師に招き、竹市翁の人となりや翁が育った時代背景について講義いただきました。

当日は四十九名が資料館に集い、大盛況のうちに閉会しました。苫小牧から足を伸ばされた方もおられ、会場となった資料館のロビーが溢れんばかり。寒さに堪えて来館くださった皆様に感謝申し上げます。

山本氏は竹市の年譜を中心に話を進められ、膨大な言論活動の一部をピックアップしつつ、そこで主張された内容の性質についても言及されました。最後に、森竹がアイヌ民族を日本列島全体の先住民族と主張していた点に触れ、最新のDNA研究の成果を引き合いに、アイヌ民族の先住性が今後さらに注



〔竹市が生きた時代について語る山本講師〕

目されるだろうと締め括りました。

また学生自治会では、先月の地文大で行った講座の内容を『白老地域文化大学叢書第十号』として製本しました。「町おこし座談会、私のアイデア」の議場で発表された熱い意見の数々を一冊に押し込め、いつものように二百円で販売しています。また先月もお知らせしたように、図書館においても、既刊・新刊併せてご覧いただけます。

なお今回の地域文化大学は、現在観光協会と共同で作成中の「アイヌ語地名マップ」を参考資料に、苫小牧駒沢大学教授の岡田路明氏より白老のアイヌ語地名にまつわる伝承について解説をいただきます。講座は三月十三日(土)の一時半から。平成二十一年度最後の講座でもあり、終了後には修了証書の授与式も執り行います。

ところで、開講から早くも四年目に突入する地域文化大学ですが、残すところいよいよあと一年です。来年度も多種多様な分野を取り扱い、皆様により郷土の魅力を知っていただけるよう、事務局でもおおいに頑張っていくつもりです。よろしくお引き立て下さい。

## 雛人形展が開催中です

春が待ち遠しくて耐えられない皆さんへ朗報です。二月十九日より、陣屋資料館において暖かい季節を先取りする催し『麗しの雛人形展Ran's』を開催しています。色鮮やかで雅な雰囲気醸して止まない、麗しき人形の数々を町内外のご家庭より借り受け、咲き乱れよとばかりに一挙公開。



「ズラリと並んだ雛人形。」

壮観壮観！

十人十色なんて言葉もありますが、借り受けたお雛様はいずれも絢爛にして、しかしいずれも異なる優雅さと華やかさに溢れています。

また、必ずしも大人しく並んで座っているばかりがお雛様ではありません。三人官女が…

…三人官女が…こ、こんな所に！ とまあ、驚きの理由は実際にご覧いただくとして、同展示会に絡んだ大切なお報せを、もう一つ。二月二十八日(日)十時から雛祭り企画においての恒例行事「心づくしのお雛さま会」を挙行します。お抹茶の先生や関係者協力のもと、慎ましいながらも晴れやかな春の日を一緒に楽しみませんか。参加はもちろん、差し入れも大歓迎。  
麗らかなる春の宴、いざや、ご覧あれ！

## お抹茶の日と、鑑試着の日に関するお報せ

毎月、第二土曜日に実施している「抹茶でおもてなし」。二月も二週目にあたる十三日に、陣屋資料館ロビーにて場を設けます。お茶の先生が用意して下さるお茶請けは、季節ごとの趣向と工夫が凝らされ、目と舌の両方で風情を楽しめます。

また二十日(土)・二十一日(日)・二十二日(日)の三連休には、鎧の試着体験を行います。国際姉妹都市、ケネルの子供達にも大好評。なかなか触れる

機会のない具足を装着し、その感触をじかに感じてみませんか？

## 美しい伝承と地形よ、永久に

アイヌ民族の伝承や、太古の遺跡が多数残されている虎杖浜のアヨコ海岸一帯を名勝として指定し、正しく保存していくための準備が、水面下で着々と進められています。早ければ秋頃までに、前述の地域周辺が「ピリカノカ(美しい形)」として登録される見通しです。襟裳岬をはじめとした道内の数カ所が、既に国からの指定を受けているなか、いよいよ白老のピリカノカも全国へ発信される日が近づいて来ました。

アヨコ海岸近隣の大地には、白老の先人達が刻んだ営みの痕跡が、現在でもなおハッキリと残っています。

雪が嵐と遊ぶ二月十八日、道教委の担当者と共に来るべき決戦(文化庁が視察を行う)の日に向け、入念な下見と打ち合わせを行いました。指定の経過については追々報告しますが、価値ある遺構と伝承を後世まで残すべく、陣屋資料館でも力を尽くしたいと思えます。



「嵐と雪原に立ち向かう男達の雄姿」

## 「仙台陣屋かわら版 第六十二号(平成二十二年三月号)」

発行日:平成二十二年二月十九日

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・坂本